

日本 N G O 連携無償資金協力国際協力重点課題事業概要（第 2 年次）

6. 事業内容	<p>1. <u>キーティーチャー（※）の育成（各地区の指導者研修）</u> ※各省の教育局が小学校の校長・副校長・教員・教育局の職員から選任した。 <u>ラムドン省のキーティーチャーに対する中級障害児教育研修</u> 当会が結成したホーチミン市障害児教育専門家チーム（日本人 3 人を含む）が、ラムドン省の 30 名のキーティーチャー（知的障害児教育 15 名、聴覚障害児教育 15 名）に対して、それぞれ 1 回 2 週間、中級障害児教育研修を実施する。2 年次はキーティーチャーが講師となる模擬授業も実施する。また研修ではラムドン省の教師のニーズに対応してアセスメント実習、IEP 作成実習、インクルージョンクラスの運営方法、手話演習を多く取り入れる。それにより、ラムドン省の各地区（全 12 地区）に、それぞれ数名のインクルージョン教育（※）を専門としたキーティーチャーを育成する。 ※インクルージョン教育というのは、一人一人のニーズに応じた教育を展開することで、障害ある児童も含めた一人一人違っている子どもを一人残らず包み込む（include）教育システムを構築することである。</p> <p><u>ドンナイ省のキーティーチャーに対する上級障害児教育研修</u> 当会が結成したホーチミン市障害児教育専門家チーム（日本人 3 人を含む）が、ドンナイ省の 31 名のキーティーチャー（知的障害児教育 16 名、聴覚障害児教育 15 名）に対して、それぞれ 1 回 2 週間、上級障害児教育研修を実施する。2 年次はキーティーチャーが講師となる模擬授業も実施する。また研修ではドンナイ省の教師のニーズに対応して、アセスメント実習、IEP 作成実習、障害ある児童の問題行動の対応を多く取り入れる。それにより、ドンナイ省の各地区（全 11 地区）に、それぞれ数名のインクルージョン教育を専門としたキーティーチャーを育成する。</p> <p>※2 週間研修という短期間ではあるが、研修後も 61 名のキーティーチャーが、アジア・レインボーの 4 名の専門家や 10 名の研修講師にいつでも相談できる体制が整っている。 2 週間研修後の 9 月から次年時の 5 月まで、61 名のキーティーチャーは、各地区で研修を実施したり、各小学校の研修の支援をしながら、専門家からアドバイスを受けて、現場で問題意識と対応スキルを高めていく。さらに、次年時の 6 月に、現場での問題やニーズに対応した当事業の 2 週間研修を受ける。</p> <p>2. <u>各小学校の校内指導教師研修</u> 当会が結成したホーチミン市の障害児教育専門家チームが、ドンナイ省とラムドン省で、校内指導教師を対象にしたインクルージョン教育 3 日間研修を、各省年 3 回実施する。（各省 300 校の小学校対象、2 年目までに 800 人の教師に 3 日間研修を実施する。研修内容は 3 年間ほぼ同じ内容で、できるだけ多くの教師の参加を目的とするため、3 年間で 1 人 1 回の参加を原則とする。）</p> <p>3. <u>各地区の地区内研修</u>（ドンナイ省教育局、ラムドン省教育局の費用負担、アジア・レインボーの専門家による適時の支援） ドンナイ省とラムドン省の各地区では、各地区数名のキーティーチャーが自身の所属する地区内の障害ある児童を受け持つすべての教師に対して、必要時研修を実施す</p>
---------	--

	<p>る。(平均 1 回～2 回ずつ。)</p> <p>4. <u>各小学校の校内研修</u> (ドンナイ省教育局、ラムドン省教育局の費用負担、アジア・レインボーの専門家による適時の支援) ドンナイ省とラムドン省の各小学校では、専門家により育成された校内指導教師やキーティーチャーが、障害ある児童を受け持つすべての教師に対して、必要に応じて研修を実施する。</p> <p>5. <u>インクルージョン教育のマニュアルの作成・発行</u> 小学校のクラスで担任の教師の指針となるマニュアル「わかるインクルージョン教育」を当会が作成し、ドンナイ省、ラムドン省教育局が印刷し、省内の全インクルージョン小学校に配布する。</p>
<p>7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など</p>	<p>① これまでの事業における成果 (実施した事業内容とその具体的成果)</p> <p>事業 1. <u>キーティーチャーの育成(各地区の指導者研修)2014 年の活動が終了した。</u> 研修実施場所：Nguyen an Ninh 小学校、住所: 1 Truong Dinh, Tan Mai ward, Bien Hoa city、ドンナイ省</p> <p>実施内容： ラムドン省のキーティーチャーに対する中級障害児教育研修 当会が結成したホーチミン市障害児教育専門家チーム (日本人 3 名を含む) が、ラムドン省の 30 名のキーティーチャーに対して、中級障害児教育 2 週間研修を実施した。</p> <p>知的障害児教育研修 15 名 < 6 月 23 日 (月) ～ 7 月 4 日 (金) > 聴覚障害児教育研修 15 名 < 7 月 7 日 (月) ～ 7 月 18 日 (金) ></p> <p>成果： 研修を受けた 30 名のキーティーチャー全員に研修終了後インタビューを実施したところ、ほとんどのキーティーチャーから、「研修前、普通小学校で障害ある児童がどのように学習するのかわからなかったのが不安であった。研修を受ける中で、障害ある児童に対しては、その児童の障害や発達心理を理解し、学習ニーズを把握し、ニーズに基づいた個別教育計画書を作成し、その計画書に沿って学習を提供する事や、授業中に大声を出す、授業中に教室を走り回るなどの行動に対して適切な対応をする事など、インクルージョン教育というのは、[一人一人違っている子どもを一人残らず包み込む (include) 教育システムを構築する。また、一人一人のニーズに応じた教育を展開する。] という事がよく理解できた。各地区に戻ってから、障害ある児童を受け入れている教師対象の地区内研修を実施したい。」という意見が聞かれた。また、研修で学んだ内容をもっと勉強したいという積極的な意見もあった。</p> <p>実施内容： ドンナイ省のキーティーチャーに対する上級障害児教育研修 当会が結成したホーチミン市障害児教育専門家チーム (日本人 3 名を含む) が、ドンナイ省の 31 名のキーティーチャーに対して、上級障害児教育 2 週間研修を実施した。</p> <p>知的障害児教育研修 16 名 < 6 月 25 日 (水) ～ 7 月 8 日 (火) > 聴覚障害児教育研修 15 名 < 6 月 25 日 (水) ～ 7 月 8 日 (火) ></p> <p>成果： ドンナイ省のキーティーチャーは、先行事業からすでに毎年各地区で研修を実施しているが、キーティーチャーが抱える問題は医療や福祉にま</p>

で膨らんでおり、方向性に悩むキーティーチャーが多かった。キーティーチャーからは、「今回の研修で、自身のキーティーチャーとしてのスキルを高めるといった目的と、地区内研修の充実という方向性の確信をもてた。」という意見が聞かれた。また、すでに各地区がインクルージョン教育に取り組んでいることもあり、研修中は、各地区の特色（強み、弱み）を紹介する時間も設け、各地区がお互いに学びあう環境も構築されつつある。

②&③ これまでの事業を通じての課題・問題点とその対応策

問題点 1：日本人専門家が講義形式で授業を行ったが、キーティーチャーから講義形式ではなく、ワークショップ形式の授業をしてほしいとの要望が出された。

対応策 1：まず、先行事業で既に各地区で研修を行っている、ドンナイ省スノック地区とカムミー地区のキーティーチャーから、日本人専門家に対し地区研修の状況をプレゼンしてもらった。これにより、日本人専門家が、授業をワークショップ形式にすることに同意し、実際に講義形式に加え、ワークショップ方式も取り入れられた。

問題点 2：1年次のキーティーチャー研修はドンナイ省ビエンホア市で実施された。しかし、気候が涼しいラムドン省（気温 25 度前後）で生活しているラムドン省のキーティーチャーにとって、ビエンホア市は気候も暑く（気温 35 度前後）、研修を行っている教室にはエアコンがないため、教室内の気温が 35 度以上にもなり、7 時間の通し研修では集中力も弱まるとの理由で、ラムドン省教育局から、2 年次はラムドン省ダラット市で研修を実施してほしいとの要望が出された。

対応策 2：2 年次はラムドン省で研修を実施する方向で進めている。

<p>8. 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>※<u>退学率の減少</u>： 教師が研修を受けてスキルを高める事により、在学中の障害ある児童の学習面、生活面が向上するので、在学中の障害ある児童の退学率や休学率が下がる。</p> <p>※<u>就学率の向上</u>： 現在、既にキーティーチャーや地区の教育室の職員が地区内の障害ある児童がいる家庭を訪問して、近隣の小学校への就学を勧める活動を実施している。また、ベトナムにおいてはカンボジア等の他国と異なり、学習環境が整えば、障害ある自身の子供を自分で学校へ送り迎えし、通わせたいという家庭が多い。しかし、現時点でまだ教師の障害ある子供に対する教授スキルが不十分なため、学校へ通わせることができない状況にある。本事業を通して、教員のスキルが向上し、すでに在学している障害ある児童の学習の成果情報が地区内で広まり、学校の環境が整えば、自身の子供を近隣の小学校へ、送り迎えして通学させようとする家庭が増えるため、障害ある児童の就学率が上がる。</p> <p><ラムドン省></p> <p><u>A. 児童の就学率</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害ある児童の【2年次 45%以上】が近隣の公立学校に通って、授業を受け、生活も向上している。 2. 近隣の小学校へ通う障害ある児童の中で退学者が【2年次 5%未満】である。 *ラムドン省では、多くの児童を1度に受け入れたくても、教師のノウハウが高くないので、教師のスキルの上達に合わせて徐々に児童を受け入れる。事業終了後5年後には70%の障害ある児童が初等教育を受け、10年後には100%の障害ある児童が初等教育を受ける事を目指す。 <p><u>B. インクルージョン教育研修システムの構築の進捗</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要時に研修を実施している小学校の割合が【2年次 60%以上】である。 2. 年1回以上研修を実施している地区の割合が【2年次 70%以上】である。 <p><ドンナイ省></p> <p><u>A. 児童の就学率</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害ある児童の【2年次 90%以上】が近隣の公立学校に通って、授業を受け、生活も向上している。 2. 近隣の小学校へ通う障害ある児童の中で退学者が【2年次 5%未満】である。 <p><u>B. インクルージョン教育研修システムの構築の進捗</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研修を実施している小学校の割合が【2年次 80%以上】である。 2. 全地区内で年1回以上研修ができている。 3. 各小学校内にインクルージョン教育のリソースチームがいる。 4. 地区内の保健室、福祉室、女性団体などと連携ができている、協力してインクルージョン教育が実施されている。
---------------------------	--